

おんなともだち

作 中村 列子

「登場人物」

田中千恵子	出前	田口 五月	佐藤 和恵	清志	川崎 敦子	橋本 美佳	武	田中 静雄
声のみ	声のみ	50代	50代	34歳	50代	33歳	35歳	60代
静雄の妻	男女不問	静雄の亡妻千恵子の友人	静雄の亡妻千恵子の友人	敦子の長男 未婚	静雄の亡妻千恵子の友人	田中家の長女 既婚	田中家の長男 既婚	
		未婚	専業主婦		専業主婦	長崎県外在住	長崎県外在住	
		市役所勤務	東京在住					

第一幕

時 1983年（昭和58年）8月15日 早朝
場所 長崎市内の高台にある田中家

ぐるりと庭に囲まれた田中家。舞台中央に居間・上手に仏間がある。
居間は手前と奥に縁側がありガラス戸がある。

下手奥に風呂場・玄関・二階へと続く階段がある、これらは客席からは見えない。

下手前に台所があり、客席に向って大きな窓がある。

舞台奥の縁側から静雄が小さなスイカを持って居間に上がってくる。
スイカを洗いに台所に向かう静雄。しばらくしてスイカを持って仏間へスイカを仏壇に供える。上がってきた縁側から庭におりる。

第二幕

同日 午後五時ごろ 田中家

遠くから精霊流の爆竹の音が聞こえる。

隣人である清志が歌う調子外れの「赤いスイートピー」が聞こえる。

家人は誰もいない。程なくして玄関の開く音がする。

静雄 ただいま帰りました。

武 暑かったな。

美佳 早すぎたんじゃないかと？

静雄 ばってん混まん良かったたい。

武 うん。今から流す人は遅くまでかかるぞ。

居間に入って来る。静雄・武・美佳

静雄の手には妻、千恵子の遺影がある。

武 うあー！むうっとする。

美佳 （舞台奥のガラス戸を開けながら）開けて行けば良かったね。

武 （舞台前のガラス戸をあけながら）う？開かんぞ。

静雄 どちら、こつのあると（ガラス戸開く）

さわやかな風が居間を吹き抜ける。

武 風の気持ちよか。

美佳 お父さん、暑かったやろ。先に風呂にはいって。

武 そげん急かさんでもよかやつか。

美佳 敦子おばちゃんが来るとよ。

武 そうやった。

静雄 そげん言うな。今夜のご馳走ば作ってくれよるとぞ。敦子さんは。

美佳 そうだけど。

静雄 よか。風呂にはいるけん（遺影を仏間に持って行く）敦子さんも年取って昔ほどはなかとぞ。

美佳 ちゃちゃつとシャワーば浴びて。

静雄 いや、お湯に浸かる。

美佳 風呂に入ると？

武 風呂に入れて言うたとは自分やつか。

美佳 この暑かるとに風呂に浸かると？

武 親父が入るって言いよるとやけん良かやつか（静雄に）ビールで良か？だから、風呂に入るって言いよるとに解らんとね。

美佳 良かやつか。溜まるまでに時間のかかるやろうが。

静雄 よか。風呂からあがってから飲むけん。

美佳 じゃ、溜めてくるけん。

静雄 よか。入っとけばそのうち溜まるけん。

武 してやれ。

静雄 よかけん。ビールでも飲んでけ。

美佳 ほくら。お兄ちゃん私にもビール持って来て。

武 なんや。結局自分も飲みたかったとじゃなかか（と、台所へ）

静雄 よかたい。ビールぐらい。風呂からあがったらイカの刺身ばしてやるけん飲みよれば良か（と、風呂場へ）

武 最近釣れよると？

静雄 ぼちぼちたい。

武 無理せんごとせんば。

静雄 おお。

再び、清志の調子外れの「赤いスイートピー」が聞こえる。

武 なんや、あん歌。

静雄 元気で良かったい。

以後、静雄は風呂からあがるまで風呂場から語りかける。
手に缶ビールを持った武が居間に入ってくる。

武 相変わらず酷かな。

美佳 清志やろ。

武 うん

美佳 おじちゃんもおばちゃんも上手かとにね。

武 なんか食うもんはなかと。

美佳 なかよ。

武 即答。

美佳 冷蔵庫ば見て見れば。

武 ……お前さ、少しは親父に優しくゅう出来んとや。

美佳 優しくゅうしてるたい。これ以上どうすれば良かと。

武 親父異常に長風呂らしか。

美佳 それが何？

武 心配になって清志ば覗かせに来たとげな。

美佳 誰が？

武 敦子おばちゃんが。

美佳 敦子おばちゃんはお父さんが風呂に入つとる時間まで知つとると？

武 ……敦子おばちゃんやつけん。

美佳 ああ、で、長風呂がなに？

武 黙って入ってたらしか。

美佳 踊りながら入ってるよりましだい。

武 お湯に浸かって、じいっと天井ば見とるとげな。

美佳 ……そのうち、ドリフでも歌いだすとじゃなかと。

武 お前は解つとらんない。

美佳 解ってるさ！

武 親父さ、パンツば脱衣所に脱がんで風呂場に脱ぎ捨てよつたたい。

美佳 ああ、気持ち悪かった。濡れた父親のパンツが風呂場にあるとって。

武 今でもしてるとやるか？

美佳 ……

武 連れ合いに先立たれた男のパンツが濡れて風呂場にあるとぞ。

美佳 ……嫁さんでも貰えばよかとさ。

武 そげん事ば言うなさ。

美佳 ……

武 そげん事ば言うて傷つくとはお前やか。お前のそげん姿ば見たら。お

袋は帰るに帰れんやろが。

美佳 じゃ、ずっとこげんしとる。

武 ああもう。親父の着替えば持って行ってやれ。

美佳 なんで私が。

武 お前が持って行ってやれば喜ぶけん。

美佳 そうかな。

武 そうさ。

美佳 ……お兄ちゃん。

武 なんや。

美佳 お母さん帰ってしもうたかな？

武 ……帰ったな。

美佳 もう、来年まで会えんのかな。

武 お前がいつまでもそげんしてたら会えんさ。

美佳 ……はいはい、着替えでも持って行きましようか。

風呂場に向う美佳

武 (独り言) 親父は風呂場に洗濯にきました…

美佳 お父さん、着替えここに置いとくけん。

静雄 おお、ありがとう。

武 すると、川上から桃がドンブラコドンブラコと流れてきました。親父がその桃を割ってみると……な、なんと不思議……桃からお袋が出てきました……とさ。

美佳、スーパーのビニール袋を手に居間に入って来る。

武 なんや。

美佳　べつに。

武　ぬるうなるぞ。

美佳　暢気にビールなんか飲んで。

武　なんや急に、自分も飲んでたたい。

美佳　ああ！もう。

武　おかしかぞ。

美佳　何が！

武　顔が。

美佳　なんて！

武　あー、もうせからしか。だけん、なんや。

美佳　もう！なんでんかんでんスカン。

武　なんば言いよるとや。

美佳、手に持ったスーパールのビニール袋を武に差し出す。

武　なんや？

袋の中身を取り出す。

武　白髪染めやつか。

美佳　レシートの日付みて。

武　∞月23日……使えんやつとか。

二人　……

美佳　お父さんどうして入院させんやつたのかな。入院させとったら助かった
かもしれない。

武　言うな。

美佳　お兄ちゃんはどうもなかと。

武　どうもなかわけなかつか。

美佳　じゃ、なんでお父さんに何もなん言わんと。

武　なんて言うことや……言うてもしよんなか。死んでもうとるとやけん。

美佳　はあ？しよんなか？

武　二人が決めたことやけん。

美佳　じゃ。私達は？

武　……子供ンごたることば言うな。

美佳 子供やもん言うさ。

武 親父達には親父達の考えがあつてのことやけん。

美佳 そこには私達子供の居場所はなかとね。

武 ……美佳はよかな。言いたか事ば言うて。

美佳 私はお母さんに生きててほしかったと、それだけたい。

武 それは誰でも一緒たい。

美佳 じゃ。

武 ばつてん、それは俺たちの考えでお袋はどう思つてたか。

美佳 ……寝たきりでンよかけん生きててほしかったと。お父さんは酷か…私、お父さんば許さんけんね。

武 入院したつて助かつたとは限らんたい。病院で寂しか思えばさせるだけやつたかもしれんとぞ。

美佳 入院してみらんば分らんたい。自分の女房一人助けきらんで。

武 そげん事ば親父には言うなぞ！

玄関先で元氣のいい声がする。隣人の敦子である。

敦子 おるね。

静雄 おーい、誰か来たぞ。

敦子 ウチ、敦子。

静雄 あー、敦子さんね。風呂に入つてるけんあがつてゆつくりしてくれんね。

手にスイカを持った敦子が台所へ。

敦子 そうも言つとられんとさ。美佳ちゃんスイカば持つてきたけん。

美佳 あ、すみません（と、台所へ）

敦子 冷やしとつたけん食べごろばい。冷蔵庫に入れとくけん。（冷蔵庫を開けて）なんね、こん冷蔵庫は酒屋さんね、ビールばかりたい。静雄さん、こりゃ飲み過ぎばい。

静雄 ああ、武達が来とるけん。

敦子 なんね、こん納豆は干からびてるたい。こげんとは捨てんば。

美佳 私がするけん。

敦子 そうたいね。

敦子、居間に入って来る。

敦子 武。あんた飲み過ぎじゃなかとね。

武 あ、うん。

敦子 なんね、どげんしたとね。

武 美佳がちよっと。

敦子 なんね？

武 親父がお袋ば入院させんやったことで。

敦子 ああ。

武 ……おばちゃん今日はありがとう。

敦子 なん？

武 ご馳走。

敦子 ああ、こいが千恵子の精霊流しじゃなかったら良かったとぼってん。

武 うん。

敦子 そいでなんやったかな（台所へ）あ、思い出した。武に用事やった（居間へ）あんたに用事やったとよ。こげんあるとよ。戻らんば思い出さんとやけん。そこで思い出したけん良かったぼってん、危なかつたところで家まで帰るところやった。

武 おばちゃん、早よう言わんば又忘れるよ。

敦子 そげん年じゃなかよ。

武 うん、分ってる。そいで？

敦子 そうそう、料理ば家から運んでほしかと。祖母ちゃんに聞けば解るけん。

武 おばちゃんは？

敦子 ちよっと休憩。

武 大丈夫？

敦子 大丈夫、大丈夫。あ、祖母ちゃんが「おしん」の話ばしだしたら長かけん程々にせんばよ。

武 分かった。

敦子 祖母ちゃんがさ、熱心に見よるとにいちいち文句ば言うとき。おしんより自分の方が苦労してると。

武 （笑う）

敦子 誰でん自分の苦労が一番ひどかけんね。

武 おばちゃんにも苦労のあると？

敦子 人ば化物のごとゆうて。

武 そうたいね。じゃ行ってくるけん。

武、料理を取りに行く。

敦子 美佳ちゃん、冷たかもんば一杯ご馳走してくれんね。
美佳 はい。

敦子 (白髪染めをみて) これどげんしたと?

美佳 (飲み物を持って居間に入って来る) なん?

敦子 こん白髪染め。

美佳 ああ、お母さんの。

敦子 なんで?

美佳 使えんやったとよ。

敦子 ああ、そうね。

美佳 ちゃんと入院して治療してれば、ここにこれは無かったとに。

敦子 ……

美佳 お母さん自分で染めよったとね。

敦子 違うよ。静雄さんが染めてやりよったとよ。

美佳 お父さんが?

敦子 そうよ。

美佳 お父さん、そげん事できたと?

敦子 そいがさ、最初の頃は下手やったとき。こうブチのごとなってさ。

美佳 お母さん嫌がってたやろ。

敦子 最初はね。ところがだんだん上手じょうずになってね。聞いたら知り合いの美容

師さんにやり方ば習ったとげな。

美佳 ウソ。

敦子 その縁側で染めよる姿の可愛らしかった。仲ン良か番つがいの鳥ンごたった。

美佳 ……

敦子 近寄りがたかった。

美佳 ……

敦子 あんたの両親は本当の相手ば見つけたとよ。

美佳 ……

敦子 割り込めんとよ。

美佳 それって、私、寂しか。

敦子 うん。寂しかね。

美佳
敦子

…

しよんなか。あんたも自分の旦那と番になればよかたい。

清志が歌う調子外れの「お嫁サンバ」がだんだん近づいてくる。
玄関を開けると同時に清志が元気な声で。

清志

おじちゃん。清志。

静雄

おう、清志かあがれ。

清志

おじちゃん今日の高校野球みた？

静雄

見とらん。

清志

見らんば時代に乗り遅れるばい。

静雄

おお、そうか。

清志

それがさPLの桑田って投手が凄かとき。

静雄

そうか。

清志

一年生ばい。

静雄

そうか。

清志

同じ一年生で清原って選手も打つとき。

静雄

そうか。

清志

PLと池田で決勝になったら面白か試合になるとに。

静雄

そうか。

清志

水野対桑田。やまびこ打線対清原。高校野球対おしん。

静雄

最後ンとはなんや？

清志

祖母ちゃんと俺おいのチャンネル争い。

静雄

祖母ちゃんに譲ってやれ。

清志、居間に入って来る。

清志

お、美佳ちゃんではありませんか。

美佳

おお、久しぶり。

敦子

祖母ちゃんは？

清志

武と喋ってる。

敦子

おしんやろ。

清志

うん。

敦子

あんたまさか手ぶらで来たとじゃなかやろね。

清志 ソンまさかたい。
敦子 気の利かんとね、せいけん振らるつとき。
清志 言うなさ。
美佳 えー又振られたと。張り切ってたたい。
清志 又って言うな。
敦子 なんば張り切ってたとやいろ。
美佳 清志
清志 なんや。
美佳 ビールの冷えとるよ（と、台所へたつ）
清志 美佳さん、人妻の身で僕ちゃんを酔わせてどうするつもり？
敦子 こげんバカやつけん振らるつとき。

敦子、出て行く。

敦子 静雄さんどこば磨きよつとか知らんばってん、今日は早ようあがらんば
和恵と五月も来るとやつけん。

静雄 おお。

美佳、缶ビールを持って居間に入って来る。

美佳 和恵おばちゃんときつちちゃんおばちゃんも来ると。
清志 当たり前たい。千恵子おばちゃんの精霊流しぞ、三人集まらんわけなか。
美佳 そうたいね。そいでなんで振られたと。
清志 聞いてどげんすつとや。
美佳 面白かけん。
清志 はあー世の中ン女どもは俺おいの魅力ばいっちょん解かつたらん。
美佳 ほら、早よう言わんね。
清志 その手には乗りません。
美佳 どうせあんたには隠し事はなかとやろが。
清志 あるさ。
美佳 無なか無か。いつもおばちゃんに身ぐるみ剥がされてるたい。
清志 確かにかなわんとやもんな。
美佳 うん、かなわん。おばちゃんにかなう人はおらんやろ。
清志 分るや？

美佳 分るさ何年の付き合いって思とつと。
清志 美佳だけばい俺のことば分つとつとは。

美佳 好きな人が出来たら誰かに言いたくなるもんねく
清志 分るや？

美佳 分る分る。

清志 理想の彼女ば見つけた！って思ったとき。

美佳 そいで？

清志 お前達とは正反対の花ongoたる彼女やった。

美佳 今度はなんの花ね。

清志 パンジー。

美佳 良か良か、個人の自由やつけん。好きにせんね。ばってん向日葵ばっかり見てるけん、パンジーとかコスモスとか風の吹いたらウフフツツって揺れる花に憧れるとき。

清志 向日葵って？

美佳 おばちゃん。

清志 ああ、あの暑苦しさは向日葵かもしれん。

美佳 あんたの周りには向日葵しか育たんとよ。あきらめんね。

清志 分るもんか。育ててみんば。

美佳 じゃ、万が一パンジーかコスモスか知らんばってん付き合い合うことになつたらその後どうするかね？

清志 結婚するさ。

美佳 あら。

清志 なんや。

美佳 生活感のない話ばかりするけんビックリしただけ。

清志 俺は結婚生活に憧れてると。

美佳 憧れが妄想になつてる。

清志 お前の両親ばみてたら結婚って良かなーって思ったとき。

美佳 えっ？

清志 ここのおじちゃんは男の中の男ばい。

美佳 はあ？

清志 自分の女房ばちゃんと守って。最後まで看取って。

美佳 分かった風な口ばきいて。

清志 見てれば分るさ。

美佳 守るとやったら。ちゃんと治療ばせんばさ。諦めたごと入院もさせんで。

清志 あーそう言う事か。おじちゃんも悩んだと思うよ。けど、おばちゃんの
思い通りにさせたよ。

美佳 分つとらんくせに。

清志 分つとらんとはお前わいたい。二人をみてたら入院するところが良かとは限らん
となつて思うよ。

美佳 入院してみらんば分らんたい。

清志 入院して、機械に繋がれて、話たかどに機械のあるけん話も出来んで、
ちよつと死期を延ばすだけ ごめん…：大事な話も出来んで。痛かとか、
痒かとかも言えんで。そげん状態になるよりよつぽどましやつたと思うよ。
美佳 ばつてん。

清志 日本の西の端に住んどつたけど日本一の夫婦やつたとよ。色々したつち
やそう長くはなかつたとよ。分かつとつたとき。二人には。

美佳 でも、正月に来た時は元気だったとよ。

清志 ああ、元気やつたね。

美佳 今までの中で一番綺麗だった。だからひよつとしたらつて。

清志 あん時のおばちゃんは綺麗きれかった。俺おいも「あれ」つて思うたもん。

美佳 でしょう。だから入院していれば可能性があつたかもしれんとよ。

清志 あん時は最後の輝きやつたとき。お前達ウイに見せるための…：暫くして弱
つていったと。

美佳 あんたは知つてるとよね…：私は知らんけど。

清志 よかさ。知らんでも。あん時のおばちゃんば知つてれば。

美佳 清志は他人やつけんそげん事ば言うとき。

清志 そうたいね。

美佳 ……

清志 弱つていったけど、元気だった。

美佳 え？

清志 何事もなか人ンごと普通に暮らしてたつてこと。

美佳 それを私は知らんとよ。

清志 なんでんかんでん知らんでもよかさ。

美佳 自分の親よ。

清志 無理さ…：それぞれやつけん。

美佳 寂しかとね。

清志 うん。寂しか…：気持ちは解るけど。慌つんな。

美佳 ……

清志 俺はあんおばちゃん達のお抱え運転手やったとばい。
美佳 うん？
清志 スーパーに連れて行けとか。迎えに来いとか。

「清志、いつまでもなンしよつと」と敦子の声が聞こえる。

清志 やかましかね。帰るけん（と、帰ろうとする）
美佳 ちよつと待たんね。出歩いてたと？

清志 当たり前たい。女が買い物に行かんわけなかない。「そいはこのあいだ買ったやろ」って言うても「安かたい」って買うとばい。自分達は手ぶらで「あれ、これ」って指さすだけたい。

美佳 良かったたい。モテて。

清志 荷物ばやろ。

美佳 アハハ

清志 とつておきが。

美佳 ？

清志 「清志！エロ映画ば見たかけん、あんたの行きつけの映画館に連れて行け！」つて。
美佳 行つたと？

清志 行つたさ。さっちゃんおばちゃんも入れて四人で見たさ。

美佳 さっちゃんおばちゃんも？

清志 面白かつたぞ。

美佳 あんただけやろ。

清志 違う、さっちゃんおばちゃんがさ。こげん所に連れてきてつてギヤアギヤア騒ぐとばい。

美佳 さっちゃんおばちゃんらしい。

清志 ばつてん見ンふりして最後まで見とつた。帰りにメシば食うて帰つたとばい、さっちゃんおばちゃん喋る喋る。

美佳 初めて見たとやろか。

清志 あれはだいぶ無理しとつたな。

美佳 そうやろね。

清志 さっちゃんおばちゃんは教育してやらんばイカン。

美佳 なんの？

清志 人生の。

美佳 あんたがね。

清志 うん。お前も教育してやつけん、安心しとけ。

美佳 遠慮しとく。

再び敦子の声 「清志！聞こえとつとやろ」

清志 ハイハイ。(美佳に) 帰るけん

清志、出て行く。

清志 おじちゃん、早ようあがらんばのぼせるばい。

静雄 おー。

遠くから精霊流しの爆竹の音が聞こえる。

美佳 こんなに広がったかな。

部屋の灯りをつける。そこへ電話が鳴る。

美佳 はい。橋本で、あ、田中です。……うん、間違った。(笑)……解った。早く帰ってきて……千尋に代って。……そうね。近くで見たらダメよ。ちやんと耳栓してね……お父さんに代って……

遠くから「きつかー」「暑かー」「この坂どうにかならないのよ」と言う声がだんだん近くなってくる

美佳 県外の人みんなそう言うね。あの喧噪は歌と全然違うからね……精霊流しを済ませて送り鐘を鳴らしながら自宅に帰るのよ……そう、その鐘。その時の歌だと思う。今夜聞けると思うよ……送り鐘……子供達気を付けてね。爆竹……あなたも。

玄関の開く音。和恵と五月が訪ねて来た。

二人　こんばんは。
静雄　おーい。誰かきたぞ。
美佳　はーい。お客さん来たからきるね

美佳、電話を切り玄関へ。

美佳　こんばんわ。和恵おばちゃんときつちゃんおばちゃん。
静雄　おーそうか。ゆっくりしてもらえ。
美佳　お父さん今風呂に入ってるんです。じきにあがるとおもいますから。
和恵　お久しぶりです。和恵です。
静雄　和恵さんね。こげん格好で勘弁してね。
美佳　お父さん、早く上がってよ。
静雄　遠くから来てもらって。
和恵　いいえ。葬式にこれないで。
静雄　よかよか。美佳、涼んでもらえ。
美佳　分ってるから。早く上がって。どうぞ、上がってください。

三人、居間に入って来る。

美佳　暑かったでしょう。冷たいものを持ってきますね(テーブルを片付ける)
五月　敦子は本宅ね。
美佳　え？あ、はい。
和恵　なに？
五月　あっちが本宅。こっちが別宅。
美佳　いろいろとお世話になってるんですよ。

玄関の開く、元気よく敦子が入って来る。

敦子　美佳ちゃん(静雄に)敦子。
静雄　おー。上がってゆっくりしとかんね。
五月　ほくら。来た。

美佳玄関へ。

美佳 おばちゃん達来てるよ。

敦子 うん。登って来るとの見えたけん急いだとよ（台所へ）これ、鍋ごと持
つてきたけん、こう見栄えのよかごと皿に盛ってくれんね。

美佳 うん（台所へ）

敦子、居間に入って来る。

敦子 久しぶり。

和恵 相変わらず声が大きいわね。

敦子 あんハイヒールは和恵ね。

和恵 そうだけど。

敦子 あげん靴でこん坂ばよう登ってきたね。

五月 大変やったとよ。

敦子 清志に車ば出させたとに。

五月 バス通りまではタクシーで来たけん良かったとけど。そこからの坂がオ
オゴトやったとよ。

敦子 下の道からの坂はたいしたことなかない。

五月 東京の人になってしもうたとよ。

敦子 ぼってんあん靴では下りは大事おおごとばい。

五月 そうさね。

和恵 大丈夫って。私だつてこの辺りを走り回ってたのだから。

敦子 いつの話よ。

五月 何年になるかな（と、計算し始める）

和恵 いいから。で、鍋ってなに？

敦子 今夜のご馳走たい。

和恵 （五月に）あなたには出来ない芸当ね。あ、そうそう庶民の皆さま。私わたくし、
ちよつと、ハワイに行つてきましたの。

五月 なんて？

和恵 ヒコークィで。

五月 面白かたい。

和恵 はい、お土産（チョコレートとパンフレットをだす）これを見て行つた
気分でも味わつてくれたまえ。

敦子 なんて行つたとね？

和恵 主人の定年の記念にね。

敦子 あら、定年になったと。
和恵 これ、写真（写真を出す）
敦子 （写真を見て）ワイキキの浜辺。懐かしか。
五月 いつ行ったと？
敦子 行って言ってみたかね。
五月 行く時は誘ってよね。
敦子 あら、なんね。こんオウム慣れてるね。
和恵 ああ、ハワイだからね。
敦子 あらーお舅さんも連れて行ったとたい。
和恵 え？
敦子 これ（と、写真を見せる）良かことばしたね。喜んだやろ。
和恵 なに言ってるのよ（写真をとりあげ）主人じゃない。
敦子 （写真を取り上げ）あらー。お舅さんかと思った。
和恵 （写真を取り上げ）止めてよ。
五月 （写真を取り上げ）あらら
敦子 （写真を取り上げ）大騒ぎして結婚したとに。
五月 昔はよか男やったとに。
敦子 うんさ。どげんすればこげんなるとやろか。
五月 太って。
敦子 禿げて。
和恵 やめてよ。
敦子 （別の写真を手に）ちよつと、これ。
五月 （嬉々として）また、なんかあったと？
敦子 これ（和恵に見せる）
和恵 うん。うちの双子ちゃん。
五月 あら、可愛らしさ。
和恵 その子もいづれは禿げて太る血を受け継いでるのよ。
五月 言わんと、可哀そうに（写真に）ねえ、僕は禿げませしえくんって言わんね。
和恵 （写真をみて）そっちは女の子よ。
五月 あら。
和恵 返してよ。
敦子 千恵子が死んだ頃に生まれたとやけん三カ月になるとね。
五月 早かね。

敦子 祖母ちゃんの気分はどうね。

和恵 いいわよ。

五月 「私はまだ祖母ちゃんになる歳じゃない」って騒いでたとに。

和恵 可愛いよ。ウチの孫を見てたら他所の子がへちやむくれに見えちゃつて。困っちゃうの。

敦子 はいはい。

和恵 清志君はどうなの？

敦子 ありやダメ。霞ば食うとるごたる女ばっかり追いかけて。

和恵 それじゃ、敦子に太刀打ちできないわね。

敦子 猫つかぶりばかりたい。

和恵 いいじゃない。猫百匹かぶってようが二百匹かぶってようが。男でなかつたら。

五月 なんそれ？

和恵 またまたカマトトが。

敦子 言ってやらんね。エロ映画も見に行つたとやけん。カマトトじゃなかつて。

和恵 驚き。で、どうだったの。

五月 まあね。

和恵 へえー

敦子 ほら、お参りの済んどらんやろ。

和恵 そうそう。

三人仏間へ

和恵 ハワイのお土産（と、仏壇に供える）

五月 （仏壇に向つて）禿と行ったとつて。

敦子 （仏壇に向つて）お舅さんじゃなかよ。

和恵 お黙り。

三人並んで手を合わせる。

五月 ねえ。今はこげんして三人で並んでお参りしてるけど、次々に向こう側

にいくわ けやる…ウチ、一番最後はスカン。

和恵 私だつて。

五月と和恵、敦子をみる。

敦子 なんね。ウチだつてスカンさ。一番最初も一番最後も嫌ばい。

和恵 敦子が最後でないと色々困るでしょう。

敦子 なんで？困る事のあると？

和恵 後始末の事もあるし。

敦子 そげんと旦那にしてもらわんね。

五月 ウチ旦那おらんもん。

敦子 ああ。

和恵 清志君に頼んだら？

五月 そうたいね。そいはよか。

敦子 止めてくれんね。冗談に聞こえんけん恐ろしか。

五月 そしたら、やっぱり敦子に頼むしかなかね。

敦子 なんでウチが最後つて決まったごとと言うと。

和恵 敦子さ。昔、自分の葬式の夢を見たつて言つてたじゃない。

五月 言つてた。白黒の垂れ幕が紅白になつててウチ達が派手な格好でお参りに来たつて怒つてた。

和恵 自分が死んだ夢を見た人つて確か長生きするんだよね。

五月 頼んだけんね。

敦子 それは無理。

五月 なんで？

敦子 この中で一番長生きするとはあんたやつけん。

和恵 それは言えてる。この人は誰よりも一番最後まで生きてると思うわ。地球が滅亡してもね。

球が滅亡してもね。

五月 それはあんたさ。

和恵 おあいにくさま。美人薄命だから。

五月 憎まれつ子世に憚るじやなかと。頼むけんね。

敦子 せからしかね。

和恵 (遺影をみて) ねえ、いま千恵子笑わなかつた。

敦・五 (遺影を見て) 嘘。

三人 笑つてる。

静寂

和恵　ねえ、そっちはどう？
敦子　最初でよかったと？
五月　みんな集まってるよ。帰ってこんね。

美佳が麦茶を持って居間にはいつてくる。

美佳　あの。
五月　（飛び上がって驚く）あー吃驚した。
美佳　ごめんなさい。

五月の異常な驚き方に吃驚して麦茶を持ったまま台所に去る美佳。

敦子　美佳ちゃんどげんしたと。

三人居間に移動。美佳再び麦茶を持って居間に入って来る。

美佳　さっちゃんおばちゃんが。
和恵　あなたいつも大袈裟に驚くわね。公金でも横領してるんじゃないの。
敦子　（五月に）分けてやらんね。ほら、美佳ちゃんも貰わんね。
和恵　あーら。いい風が吹いてる。
美佳　涼しいでしょう。
五月　なんば言うとう！
三人　えっ？
美佳　まさか。
和恵　横領。
敦子　使い込み。
五月　冗談でもそげん事ば言わんでくれんね。
敦子　そうよね。そげん気の利いたことは出来ん出来ん。
和恵　出来たら褒めてあげるね。
美佳　そげん事が出来たら一人ではないさ。
三人　え？

美佳、失言に台所へ逃げる。

和恵　言うわね。

敦子　負けてるよ。

和恵　似てきたね千恵子に。

五月　うん、似てきた。どうかした時ちよつと左肩がさがるどころなんかそっくり。

和恵　千恵子、無理してるって事なかったの？

敦子　さすがに体力は落ちていったばってん。自分でトイレにも行ってたし大病してる病人にはみえんやった。

五月　敦子は近くにいたけんよう知ってるだよ。

和恵　この病気で自宅療養って信じられないのよ。

五月　普通そう思うよね。

敦子　うん。今でもあの頃のことを思うと「本当にそうやったと？」って思っもん。

五月　ほんとうよね。

敦子　私たちの前だけだったかもしれんけど。

五月　普通やったもんね。

和恵　誰も何も言わなかったの？

五月　なんば？

和恵　親戚とか色々言う人がいるでしょう。

敦子　親戚は言うだけやっけん。

五月　言わせとけばよかと。

敦子　でも、肝心の（台所をみる）

和恵　そう。美佳ちゃんが。

三人、台所の方に目をやる。すると台所から美佳がスイカを持って出てくる。

五月　（飛び上がるほど驚いて）スイカ。スイカば食べたかねーって思とったとよ。気が利くね、美佳ちゃんは。

和恵　お黙り。

美佳　敦子おばちゃんが持って来てくれたとですよ。

和恵　（五月に）あなた何か持ってきたの？

五月　なにも。

和恵 （美佳に）ハワイのお土産仏壇にあげてるから後で食べて。
美佳 ハワイに行ったとですか？
五月 ウチ、何か買ってこようか？
敦子 よかけん。スイカば食べんね。
美佳 ここで風に吹かれながらスイカば食べるとが一番美味しかとですよ。
和恵 ほんと、贅沢な時間よね。

和恵以外スイカを食べ始める。

五月 食べんと？

和恵 今はいい。

敦子 ここの人達はスイカ好きやつけん。

美佳 「スイカ好きに悪か人はおらん」ってお父さんが。自分が食べたかだけでしように。

五月 （和恵に）だからね。

和恵 なに？

五月 別に。

敦子 聞いとらん？

美佳 なに？

敦子 お母さんの見合いの話。

美佳 なん？

五月 どの？

美佳 どのつて、お母さんそんなに見合いしてたの？

和恵 あれは見合いより出てくる料理に釣られてたのよ。

敦子 次から次へと見合いしてたね。

五月 焦らんでもよか歳やったとに。

和恵 あなたがそれを言う。

敦子 ここで見合えばした時スイカの出てきたとつて。

美佳 見合いにスイカ？

五月 （和恵に）スイカ好かんやろ。

和恵 嫌いじゃないけど、手がネ。

美佳 あ、ごめんなさい。お絞り持って来ます。（と、台所へ）

和恵 悪いわね。

美佳 あ、いえ。敦子おばちゃん、ちよつと。

敦子 なんね。(と、台所へ)

五月 スイカはこう顔ば突き出して、手も顔も汚しながらワシワシ食べるとが一番美味しかと。手の汚れるぐらいなんね。(と、豪快に食べ始める)

美佳 あの二人どげんなつとつと？

敦子 昔からああさ、挨拶代わりさ。

五月 なんね。なんで笑うと。ああ、あんたには無理やったね気取つとるけん。

長崎に帰ってきた時ぐらい長崎弁ば喋らんね。なんね、そん東京弁のごたるとは。

和恵 オホホ。ごめんあつさつせ、お気に障つて。

五月 ……

和恵 怒つたでしょう。

五月 別に。

美佳 よかと？止めんで。

敦子 よか。させとかんね、そんうち疲れてくるけん。

美佳 仲の良かとか悪かとか解らん。

敦子 仲が悪かつたらもう終わつとるよ。

和恵 (敦子と美佳に気付いて) なにやつてんのよ。

居間に入ってくる。敦子と美佳

美佳 (お絞りを出しながら) このグループで主導権握つてるのはやっぱり和

恵おぼちゃん？

和恵 とんでもない。

敦子 和恵は表向き。実際は千恵子。

美佳 え！お母さん。嘘。

和恵 でしょう。いるかいけないのか解らないくらいボーっとしていて、誰が見ても私達に振り回されてると思われていた。

五月 ところが納得できん事には梃子でも動かない。

敦子 それで千恵子の言う通りになる。

美佳 信じられない。

和恵 悔しいことに千恵子の言う通りにすれば間違いないのよ。

敦子 大人しそうに見えて頑固。

五月 よく言えば芯があった。

和恵 大人しそうに見えて始末が悪いのは五月。

五月 えっ？なんで急にウチ？

和恵 ほらほら、

五月 傷ついた。

和恵 (美佳に) 苛めてるみたいにみえるでしょう。

美佳 って言うか苛めてる。

敦子 よかねー(と、和恵に)

和恵 ヨッ。いじめられ上手。

五月 ひどか。ウチ誤解されやすかたよ。

敦子 そうそう。誤解されやすかた。

五月 ホントって。この間も

和恵 よかけん、スイカば食わんへ。

三人 !

和恵 召し上がれ。

五月 お下品ですわよ。オホホホ

敦子 一分静かにしとこうで。ゴロンとせんね。

4人寝転がる。

和恵 ……

五月 ……

美佳 ……

敦子 ……

五月 あのさ。

美佳 え！私、敦子おばちゃんが我慢できないと思ってた。

敦子 年取ると誰だでん我慢できんことなると。

和恵 許す。述べよ。

五月、起き上がった。

五月 スイカとか中の見えん食べ物のあるやろ、それば買う人って勇氣あるよね。

和恵 スイカぐらいのことで。

五月 じゃメロンやったら？

敦子 メロンやったら慎重になるね。

美佳 私は桃。

五月 (和恵に) あんたは？

和恵 私は……ない。

敦子 さすがエリートサラリーマンの奥方。言う事が違う。

五月 果物屋で試食ば出しとるやろ。そいって買おうとしてる物と違うたい。

和恵 しつこいわね。

五月 千恵子はスイカの当たったとよ。

和恵 え、スイカでお腹をこわす人がいるの？

五月 違う。当たりくじの当たり。

敦子 ああ、そうね。大当たり。

和恵 なに言ってるの。

五月 見合いの話。

和恵 ああ、見合いの話。戻ったのね。

敦子 (美佳に) 面白かやろ。あっち行ったりこっち行ったり。

五月 そうそう。あれは絶対通じとらんよねって思っても当人達は解つとるとやけん。

和恵 そうなのよ。

五月 東京の人もそうね。東京の人ってすまして

美佳 おぼちゃん(と、五月を遮る)

五月 ごめんごめん。

敦子 どこまで話したかな。

美佳 見合いにスイカ。

和恵 ねえ、私そのスイカの話は知らないわよ。ちゃんぼんの話は知ってるけど。

美佳 見合いにちゃんぼん？バラエティーにとんでる。

和恵 ちゃんぼんが出てきてズルズル食べるわけにもいかないからモジモジしてたら麺はのびるし。一張羅の服にシミはつけるし。食べた気がしなかったって怒ってた。笑っちゃうわよね。

敦子 ああ、あれは失敗だったって言ってた。

美佳 何が失敗？チャンポン？見合い相手？

和恵 両方じゃない。断ったのだから。

美佳 じゃ、そのスイカも失敗したと？

和恵 私、スイカの話全く覚えがないのよ。

敦子 あの頃あなた様は恋におのぼせになってたじゃありませんこと。

五月 ウチ達の事はすっかり忘れられてましたのよ。

敦子 その頃の話ですよ。

美佳 おばちゃんやるね。

和恵 昔は鳴らしてたからね。

美佳 それで。

敦子 そうそうホントあっちこっちいくよね。この間も(美佳の視線を感じて)

そんなスイカが大きくてね。ザ・スイカって感じでドーンと出てきたとって。

五月 ちよんちよんって小さく切ってナイフとフォークば付けて出さんばさね。

和恵 ステーキじゃないんだからナイフは要らないわよ。

五月 見合いの席よ。

敦子 よかけん(二人を制す)そんなスイカば千恵子は“あつ”と言う間にペロ

ツと食べて、スイカの皮ば庭にポーンと投げ捨てたとって。

美佳 はあ？

敦子 「はあ？」やる。そして次のスイカば食べ始めたとって。

和恵 断られたでしょう。

敦子 うんにゃ。まとまった。

美佳 じゃ。

五月 静雄さん。

4人大笑い。

静雄 楽しかごたるな。

美佳 うん。

4人大笑い。

美佳 飲み物持ってくるね。

和恵、縁側へ

和恵 ホントここの風はいいよね。

敦子、五月縁側へ

敦子 東京ではこげん風は吹かんね。

和恵 吹かないわね。この風だけでも持って帰りたい。

五月 定年になったとやけん帰ってくればよかき。

和恵 東京にはあなたみたいにからかいがいのある人いないからね。

五月 そうやろ。

和恵 精霊流しの灯りがみえる。

敦子 去年の災害で沢山の人が亡くなったけん今年は特に多か。

和恵 その人たちも新盆なのね。

敦子 あの日は雨の痛かごと降ったとよ。

五月 そう、あの日は市の主催で夜祭のあつたけん晴れて良かったと思いながら準備の終わったところにあの雨やもん。

和恵 千恵子の親戚も被災したんだって？

五月 千恵子と話したと？

和恵 あなた達とは繋がらなかったのよ。

五月 ウチは役所の仕事で走り回ってたけん。

敦子 家は大工仕事であつちから呼ばれこつちから呼ばれ、それどころじやなかつたとよ。

和恵 あなた達はそういう事だろうと思って千恵子に電話したのよ。

敦子 なんか言ってた？

和恵 自分だけが雨風にさえ取り残されてるごたるって。

敦子 千恵子。

和恵 一人じゃなかとやろ？ 静雄さんは？

千恵子（声）家の外回りば見に行ってる。

和恵 そう。

美佳、飲み物を持ってくる。それに気づかない三人。

千恵子（声）今日は朝から抜けるような青空やったとに。急に雨の降ってきたと

和恵 そうね。

千恵子（声）ラジオから助けを求める声の聞こえる。恐ろしか。

和恵 消さんね。

千恵子（声）消した…：あの人たちはよく晴れた一日の終わりにこげん事になる

とは思ってもおらんやったやろに。

和恵 そうね。

千恵子（声） ちょっとの差で線ば引いたごと被害にあった人とあわなかった人の
おって。分らんね……分らんけど……

和恵 なに？

千恵子（声） ウチは病気でなんとなく先の見えてたばってん今度亡くなった人達
には先が約束されてたはずとに突然絶たれて。

和恵 うん。

千恵子（声） 先の事は約束されとらん明日の事は分からんとよ。分かりきった事
とに。こげん大きな犠牲ば目の当たりにせんば気付くことができんやった。

三人 ……

千恵子（声） 悪か方にばかり考えて……明日よか事のあるかもしれんとに。

二人 ……

千恵子（声） 残りの時間ば数えて……

三人 ……

千恵子（声） 大事な時間ばそげん過ごすわけにはいかんとよ。

三人 ……

千恵子（声） いつときの別れよ。

三人 ……

千恵子（声） ……また遊ぼうね。

間

敦子 ばってん早か。

和恵 私、長崎の夕日を見て綺麗だなんて思うときね。長崎に住んでたら特別

なことじゃなかやる。

敦子 そうね。当たり前やつけんね。

和恵 その当たり前は当たり前じゃなかとね。

二人 ……

五月 （千恵子に） だけんこん家で療養したと？

和恵 （千恵子に） 静雄さんに我儘を通したと？

敦子 （千恵子に） あんたは昔から頑固やったもんね。

和恵 （千恵子に） 静雄さんに感謝せんねよ。

敦子 （遺影を見て） 笑つとるさ

間

敦子 (千恵子に) 凶に乗ったらいかんばい。あんたに耳の痛かことば言うけん聞いとかんね、身内にとつてはどげん手ば尽くしても後悔は残ると。それも入院させんやった事でその思いはなお一層強かと思う…分かつとつと。分かつたらそつちで反省しとかんね。そつちに行つたら聞くけん。

和恵 (千恵子に) 静雄さんにきつか宿題ば残したね。

美佳、台所へ。それに気づく敦子。

敦子 でもねえ。千恵子も残される人のことば考えたら少しでも入院してくれとつたらね。

五月 はあ？

敦子 解ってる。解ってるけどねえ(台所を見る)

和恵 美佳ちゃん？

五月 美佳ちゃんも本当のところは分かつてるよ。

遠くで爆竹の音がする。

和恵 ねえ、50の声ば聞いた時どうやった？

敦子 先が見えた気がしたね。

和恵 私、何ンか分からんけど。私はこんなもんじゃなかつて焦った。

敦子 解る。

和恵 あんたは？

五月 「あ、50」って思った。

和恵 え？それだけ？

五月 そう。

和恵 やっぱり超越してるわ。

五月 だって、それはウチが生きてきた道やつけん文句は言えんと。もし不足があるなら残りの人生で取り戻せばよかと。

和恵 恐れ入りました。

五月 参ったか。

清志、玄関をあけ。

清志 おじちゃん、清志。
静雄 おお、上がれ。
清志 上がつとる。母ちゃんちらし寿司ば持ってきたぞ。

台所でぼんやりしている美佳をみて。

清志 うああ！吃驚した。
美佳 ありがとう。
清志 えらいしおらしかやつか。腹でも痛かとか。

三人、居間に移動

五月 きよ君、顔ばみせんね。
清志 俺おいは高かぞ。早よう口説かんば（と、お嫁サンバの一節を口ずさむ。和
恵を見て）あ、あの。こんばんは。

和恵 今晚は。元気だった。
敦子 見れば解るやろ。
清志 和恵さんもお元気でしたか。
敦子 和恵さんげな。

和恵 はい。おかげさまで。恋人できた？
清志 今、土壤改良中です。
和恵 ウフフツ。
五月 態度の違うたい。

敦子 和恵はね祖母さんになったとって。
清志 いや。お孫さんがいるとは思えません。今からでもお嫁に行つて良かご
たるです。

敦子 じゃ、あんたが貰うね。
清志 和恵さんさえ良ければ。
敦子 やかまし。それで？
清志 はあ？

敦子 全部持つてきたとね。
清志 いえ。まだ残つてます。
敦子 全部持つて来てから。ハアでもへエでも言わんね。

和恵 清志君悪いわね。

清志 いえ、とんでもなか、ごさいません。
敦子 早はよう行け！

清志、出て行く。

清志 (玄関先で) おじちゃん。すぐ来るけん。
静雄 おお。

清志、お嫁サンバを口ずさみながら帰って行く。遠くなる歌声。

敦子 あん馬鹿が。

五月 (和恵に) 「清志君悪いわね」 よう言うよね。

和恵 ご伝授もうしあげましょうか。

五月 よか。おそろしか。

美佳 (台所から) 敦子おばちゃん、美味しそうならし寿司。
敦子 そうやろ、千恵子が好きやったけん作ってみた。

敦子台所へ 続いて五月、和恵も台所へ

五月 どれどれ味見ばさせんね。

和恵 あら、綺麗かちらし寿司。

美佳 豪華ですよね。

和恵 ちよっと毒見をしてしんぜよ。

敦子 ジャマ。あっち行つとかんね。

五月と和恵は居間へ。

五月 千恵子のおかげでご相伴に預かって。

和恵 上げ膳据え膳たい。

五月 ほんと。

和恵 あんたは毎日でしょう。

五月 ?

和恵 お母さん元気かと?

五月 相変わらずよ。
和恵 お母さんも苦労するね。
五月 そうでもなかごたるよ。
和恵 ?
五月 今になってみれば、あんたば嫁にやらんで良かったって。
和恵 母娘揃って何言ってるんだか（と、お金を五月に渡す）
五月 なに？
和恵 タクシー代。
五月 よか。
和恵 よかじゃなか。
五月 長崎に帰って来た時ぐらいよか。

「渡す」「いらぬ」をアドリブで続けてください。

美佳 いろいろありがとう。
敦子 なんでんなか。あとゴマ豆腐も作ったけん。
美佳 おぼちゃんのゴマ豆腐甘くて美味しかもんね。
敦子 あんたが好いとったけん作ってみた。
美佳 うれしか。
敦子 そうね。それは良かった。
美佳 ヒジギば細かく刻んで辛子と豆腐で和えるとのあったやろ。
敦子 ああ、チョウカーね。
美佳 うん。今日も作った？
敦子 作らんやっただけど食べたかったね？
美佳 うん。
敦子 あんたのお母さん上手やったもんね。
美佳 うん。
敦子 あれの味が解るようになったとね。
美佳 帰るまでに教えて。
敦子 よかよ（居間のやり取りに）なんね。またなんか始まったとね。

五月・和恵の押し問答つづく。

五月 いらんってばね。

和恵 こういうことはちゃんとケジメばっけんば。

五月 東京に行った時世話になるけん。

和恵 えっ！

五月 気にせんちゃ良かけん（お金を和恵の渡す）

敦子 五月の勝ち。

玄関の開く音

静雄 誰か来たぞ。

武 武。

静雄 ああ。

武 （台所から）おばちゃん持ってきたよ。

敦子 祖母ちゃんからやっど解放されたね。

武 うん。おばちゃんの言う通りやった。

敦子 おしんね。

武 うん。

敦子 足の弱ってきたけんテレビだけが楽しみたい。

武 けど元気そうだった。

敦子 口はね。

和恵 武君、久しぶり。

武、居間へ

武 お久しぶりです。

和恵 元気やった？

武 はい、おかげさまで。今日はわざわざ遠いところからありがとうございます。
ます。

和恵 お葬式に来れなくてごめんね。

武 いいえ。それで双子だったそうですね。

五月 祖父ちゃん似の女の子と男子。

武 大変でしょう。

五月 うんさ。

和恵 うるさい。

武 ？

和恵 お嫁さんと子供は？

武 精霊流しば見てくるって。美佳ンところの旦那と子供も一緒に。

和恵 男の子やったよね。大きくなったやろ。

武 はい。∞年生になりました。

敦子 うちの清志も武ぐらいに挨拶の出来ればよかのに。

美佳 あれはあれで良かとじゃなか。

敦子 毎日一緒におつてみんなね。恐ろしゆうなるとよ。

五月 ウチは好すいとる。

敦子 あんたに好すかれてもね。

武 美佳、おじちゃんが待ってたぞ。

敦子 まだそげん事ば言よるとね。美佳ちゃんは忙しかとに。

五月 なに？

敦子 美佳ちゃん相手にビールば飲みたかとき。

和恵 こっちに来ればよかとに。

敦子 あんたのおるけん恥ずかしかとげな。

五月 親子そろって。

玄関の開く音。

出前 うまか軒です。ご注文の皿うどんば持ってきました。

美佳 はーい。

和恵 まだご馳走のくると？

五月 こげん時はなにはなくても皿うどんはなからんばと。

敦子 ここの皿うどんは美味しかとよ。

静雄 ……

玄関の開く音に反応しない静雄

美佳、敦子、和恵、五月 風呂場に慌てて駆けつける。

武 なんごとや。

美佳 お父さん（と、風呂場を開ける音）

三人 静雄さん。

静雄 なんや。

美佳 もう。お父さんパンツばはいて。

静雄 はきよつたところたい。
敦子 風呂でひっくり返ってるって思ったとよ。
静雄 おお。
美佳 お父さんいいかげんにしてよ。
静雄 ああ、すまんかったな。
美佳 お父さん。
静雄 戸ば閉めてよかや。
美佳 お父さん。
静雄 ごめんごめん。
美佳 お父さん。
静雄 閉めたい。
美佳 もうこんな家から精霊流しは出さんとやけん。
静雄 そうな。
美佳 お父さん。死んだら許さんとやけん。
静雄 おお。
美佳 お父さんには聞くこと一杯あるとやけん。
静雄 泣かんでよかたい。
美佳 泣きよらん！

そこへ清志が入って来る。

清志 おじちゃん。清志。
静雄 おお、上がれ。
出前 あの、皿うどんば持って来たとばってん。
清志 母ちゃん。皿うどん。
敦子 ああ、持ってこんね。
清志 お金は？
敦子 済ませてる。
出前 ありがとうございます。
清志 ここの皿うどんは美味かけんね。なんしよると？
敦子 なん？
清志 四人揃って覗きって。目立ちすぎばい。
五月 いや、違う。違うって。
清志 よかよか照れんでも。

敦子 やかまし。

敦子、和恵、五月居間へ移動。

武 どげんしたとやる。

敦子 なんが？

武 美佳。

敦子 ああ、ゆっくり、ゆっくりね。

武 ……ありがとう。

敦子 あんたもね。

武 うん。

静雄、風呂からあがって居間に入って来る。続いて美佳、清志も入って来る。

静雄 よか風呂やった。

敦子 長かよ。

静雄 すまんかったな。今日は色々してもろうて。

敦子 なんでんなか。

静雄 皆さん、今日は暑かところば、わざわざ集まってもろうて。

三人 いいえ。

静雄 和恵さんは遠くから有難うございます。

清志 わざわざじゃなか。こんおぼちゃん達はここで同窓会ばしよると。

静雄 千恵子も仲間に入れてください。喜ぶと思えますけん。

和恵 もう、ここにいますよ

静雄 そうですたいね。そしたらイカの刺身ばしてやるけん。

敦子 あとでよかけん。

静雄 そうね。そしたら。

静雄、仏壇に供えてあるスイカを持ってくる。

静雄 こいば食べましようで。

和恵 可愛いスイカ。

静雄 こんスイカは千恵子と植えたとです。今年はまだ諦めとったとばってん、

今朝見に行ったら葉っぱに隠れて一つだけヒョッコリなとつたのです。

全員 ……

静雄 みんなで食べましょうで。

清志 食うと？

静雄 食わんでどげんすると。

清志 ばってん。

静雄 食うてこそそのスイカたい。

美佳 私が切って来る。

静雄 おお。

武 じゃ、俺も。

静雄 来年はもうちよつと上手になるやろ。

美佳と武 台所へ

静雄 おめでとうございます。

和恵 えっ？

静雄 お孫さん。

和恵 ああ、ありがとうございます。

静雄 双子だそうで。

五月 祖父ちゃん似の女ン子と男ン子。

和恵 しつこい。

敦子 写真ば見せんね。

静雄 祖父ちゃん似やったらそれは可愛らしかやろ。見せてもらおうかね。メ

ガネはどこやったかな。

見つからないメガネを皆で捜す。

清志 美佳、おじちゃんのメガネ知らんや。

美佳 知らん。頭の上じゃなかと。

清志 乗ったらん。

美佳 そしたら風呂場さ。

清志 見てくるけん（風呂場へ）

五月 さっき仏壇に行ったけん（と、仏壇を見に行く）

和恵 （静雄に）いつもこんなことやってるの？

静雄　いつもじゃなか。

五月　なかつたよ。

和恵　もう、(五月に) あんたさ、後妻にきたら？

五月　えっ！

和恵　またまた。

敦子　そいは良かね。

五月　ちよつと。

敦子　静雄さん。こん人には年取ったコブの付いとるけどよかね。

静雄　そいは賑やかでよかな。

五月　なんね、なんば言いよつと。

敦子　千恵子。良かよね。

五月　(仏壇に駆け寄って) 千恵子、冗談、冗談やつけんね。静雄さんもそげん事言うたらいかんよ。

和恵　むきになるところば見るとまんざらでもないな。

五月　あんた達はホント不真面目かね。

和恵　不真面目つて。あんたホント面白かね。

清志、メガネを持って入って来る。

清志　おじちゃん(と、メガネを渡す)

静雄　おお、ありがとう。

清志　さつちゃんおばちゃんどげんしたと？

和恵　憧れの寿退社が決まったの。

清志　？

和恵　静雄さんとの結婚が今決まったと。

清志　な、なんて。おじちゃんそいはイカン。人間にはして良かことと悪か事のあるばい。

敦子　なんね言うてみんね。

清志　近親相姦のごたるもんたい。

敦子　こん馬鹿が。もう、ごちゃごちゃ言わんで父ちゃんと祖母ちゃんば呼んでこんね。

清志　父ちゃんはもう出来上つてたばい。

敦子　もう、あげん言うてたとに。早よう行け！

清志、自宅へ。

武 (台所から) 親父、ここにあるテーブルで足りるかな？

静雄 (台所へ) これではご馳走の乗り切らんな。

敦子 家から持ってこようか(と、台所へ)

敦子、台所の窓をあけ、自宅に向って叫ぶ。

敦子 清志、テーブルば持ってこんね。

清志 了解。

敦子 父ちゃんに手伝ってもらわんね。

清志 ラジャーボス。

敦子 (居間に入って) なんね。

和恵 我々は何をしましょうか。ボス。

敦子 ばか。

和恵 あら、よか風の。

五月 うん……ここはいい風のおる。

台所からスイカを持って居間に入って来る。静雄、武、美佳。

静雄 スイカのきましたよ。

五月 (スイカを見て) あ。

美佳 うん、小さかったけん。

静雄 小さくてもスイカはスイカ。食べうで。

全員、スイカを食べ始める。

静雄 うん。うまか。

武 うん。

美佳 うん。

静雄 俺おれはスイカに外れたことはなか。

全員 ……

静雄 ウチのスイカは飛び切り美味しかでしよう。

全員 ……

静雄 おかしかね。こげん美味しかもんば食べよるとに。

和恵 美味しかです。

静雄 やろ。スイカは捨てるころのなかと。皮は漬物にすれば美味かとぞ。

美佳 皮は庭に捨てるものじゃなかと。

静雄 そうな。

美佳、敦子、五月、和恵 庭をみる。誘われるように静雄、武、庭をみる。

遠くに精霊流しの送り鐘の音がする。

(おしまい)